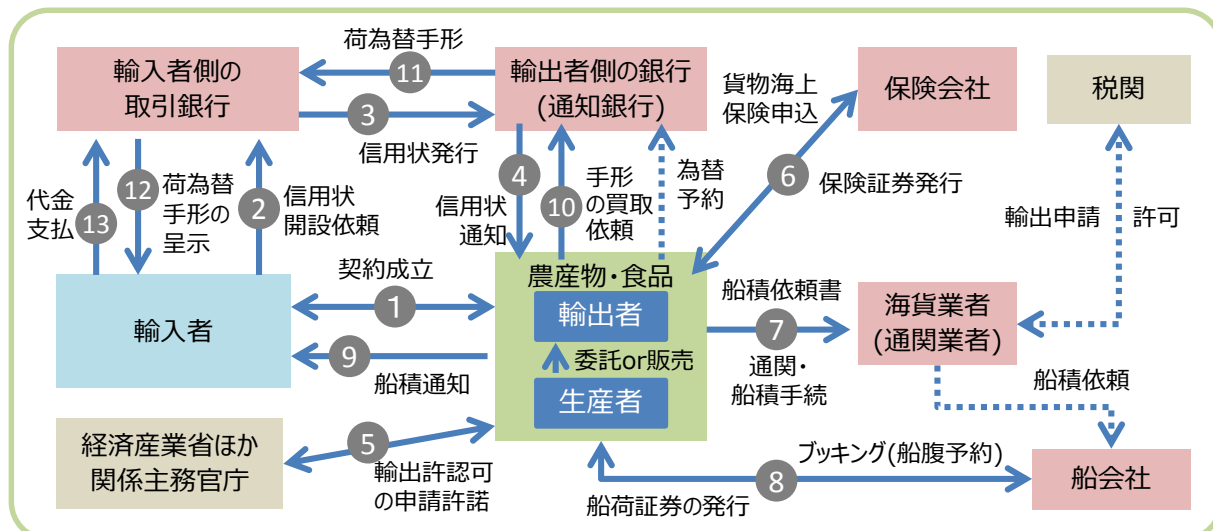


5. 参考資料—a. 商取引の流れ

一般的な輸出業務の流れ

- ・ 契約成立以降の輸出業務の流れは下図のとおりとなります。ここでは輸出側も輸入側も銀行を介した信用状を使ったケースを示していますが、これ以外に海外電信（TT：Telegraphic Transfer）送金やAmountベースの取引等があり、輸入者との関係等から選択します。



出所) 「図解貿易実務ハンドブックベーシック版」「図解いちばんやさしく丁寧に書いた貿易実務の本」よりNRI作成

ポイント 以下の⑤～⑨の業務は利用運送業（フォワーダー）に委託することも可能です。

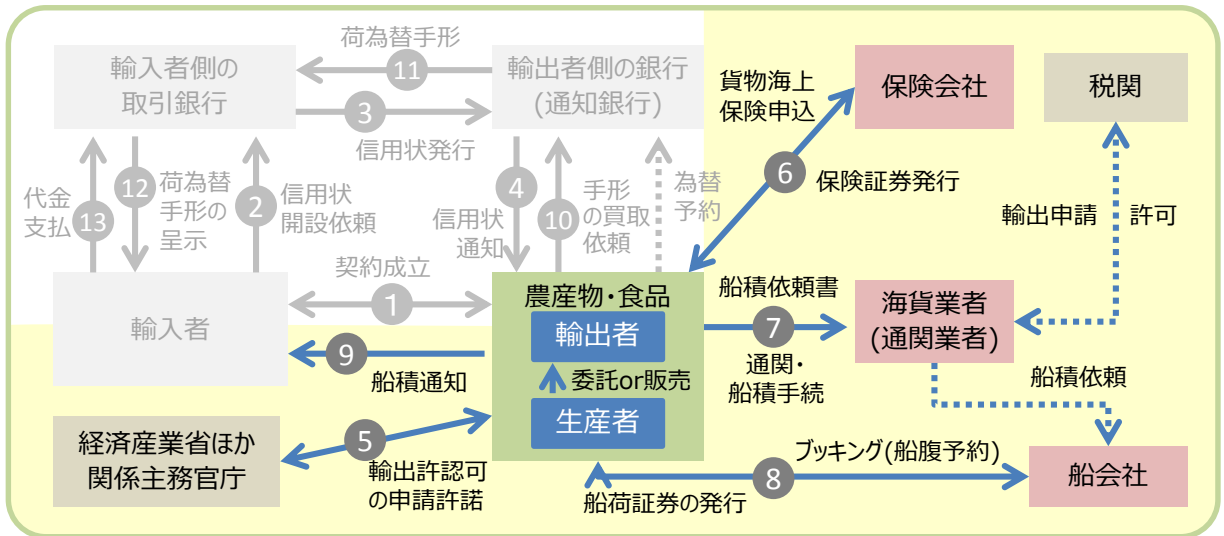
- ① 契約の成立に伴って書面で契約書を交わしましょう。(P.72 ④参照)
- ②～④ 貿易で生じるリスク回避のために、銀行を間に入れて行う「信用状取引」という方法があります。まず、輸入者が取引銀行に対して信用状開設依頼を行い、取引銀行から通知銀行に信用状が発行され、輸出者に信用状が通知されます。「信用状」を交わすことで、船積みとほぼ同時に銀行から代金支払いを受けることができ、万が一、輸入業者が倒産した場合でも銀行が支払いを確約します。
- ⑤ 輸出手続きを行う前に輸出品が関税法以外の法令で規制されているかを調べ、必要な場合は、通関手続き前に関係各省庁の許可、承認などの取得を行います。
- ⑥ 貨物の損傷や船舶の事故に備えて保険会社に貨物海上保険など各種保険の申し込みを行います。
- ⑦ 海貨業者(通関業者)へ通関と船積の手続きを行います。
- ⑧ 書類の準備ができた時点で、船会社へ船腹予約を行います。
- ⑨ 為替変動リスクを避けるために、予め通知銀行に対して「為替予約」を行っておきます。船会社から荷積み完了の船積証券が発行されたら、輸入者にメールやファックスなどで船積通知を行います。
- ⑩ 荷為替手形を作成し、必要書類を添付して通知銀行に対して手形の買い取り依頼を行います。
- ⑪～⑬ 通知銀行は輸入者側銀行に対して荷為替手形を送付し、輸入者側銀行は輸入業者に荷為替手形を呈示して代金支払いを受け、通知銀行に対して代金決算を行います。

利用運送業に委託可能

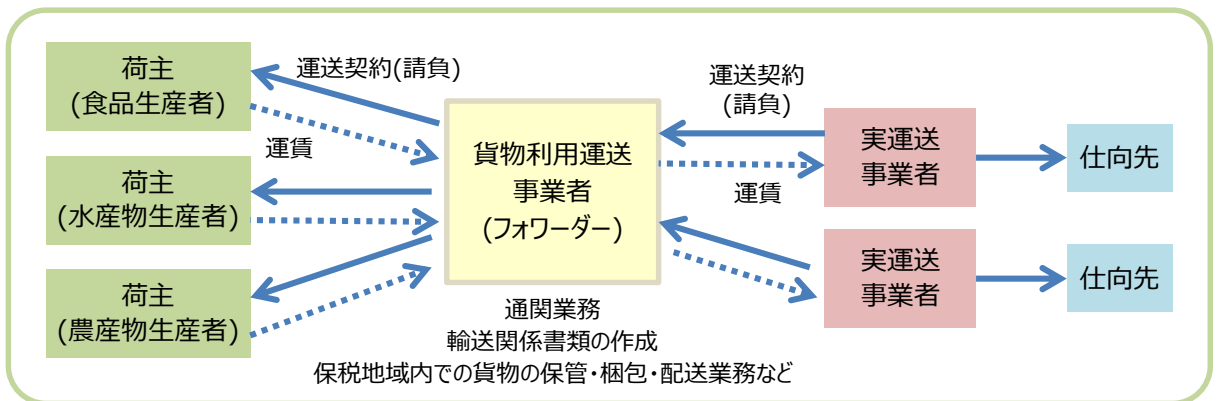
5. 参考資料—a. 商取引の流れ

貨物利用運送業者(フォワーダー)の利用について

- 貨物利用運送事業は、荷主との運送契約によって、最適な輸送手段を利用して、貨物の集荷から配達までを一貫して行う輸送サービスのことで、輸出業務の流れの中で、下図⑤～⑨の業務を生産者に代わって行うことがあります。(下図黄色部分となりますが、ケースバイケースで、保険は保険会社の紹介までが一般的です。)



- 貨物利用運送業者(フォワーダー)は、自らは運送手段を持たないものの、複数の荷主から集荷した貨物を仕向先ごとに仕分けして、一つの大口貨物に仕立て、荷主に代わって船会社や航空会社などに運搬を依頼する業務を担っています。



出所)「図解貿易実務ハンドブックベーシック版」「図解いちばんやさしく丁寧に書いた貿易実務の本」よりNRI作成

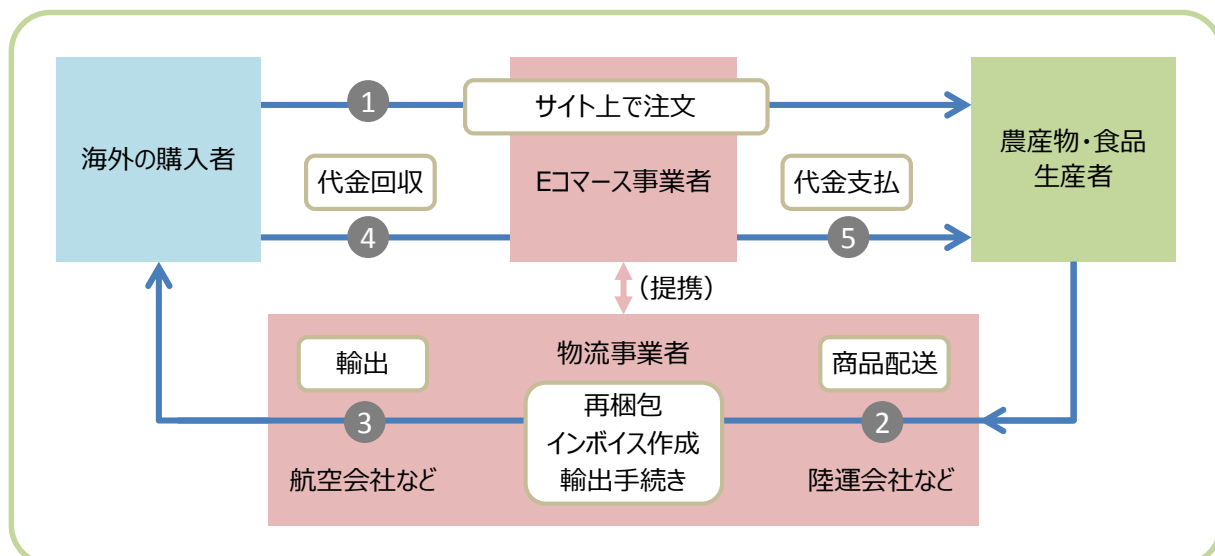
貨物利用運送業者(フォワーダー)を利用するメリット

- 貨物利用運送業者が提供する、貨物の特性を生かした多様な運送手段やルートを選択することで、荷主のあらゆる要請が満たされた商品や取引に合わせた物流を構築することができます。
- 貨物利用運送業者は、通関業務、輸送関係書類作成業務、保税地域内での貨物の保管・梱包・配送業務など、輸出入に伴うあらゆる業務を代行しており、これを利用することで、総合的な物流コストを抑え、輸出入業務の時間を短縮することができます。

5. 参考資料—a. 商取引の流れ

電子商取引（ECマース）による小口取引決済の流れ

- 農林水産物・食品の輸出でも使用されている電子商取引（ECマース）を活用した小口取引決済について説明します。
- 国際決済は、これまではL/C（信用状）取引が中心となってきましたが、電子商取引（ECマース）化が進み、小口取引決済ではL/Cを用いない越境決済システムが多数用意されています。
- 中でも、海外向けインターネットサイトを経由した食品販売では、ECマース事業者と物流事業者が連携して、販売窓口としてのインターネット店舗から、その後の煩雑な輸出手続きや販売後の代金回収までを代行することで輸出者の利便性を高めています。
- 下図はECマース決済の取引例となります。



出所)「図解貿易実務ハンドブックベーシック版」「図解いちばんやさしく丁寧に書いた貿易実務の本」よりNRI作成

ポイント

- ① 海外の購入者が、ECマース事業者が開設した海外向けのインターネット販売サイトを通じて商品の注文を行います。
- ②～③ ECマース事業者と提携した物流事業者が、商品の国内での運送と海外への輸出を行います。
- ④ ECマース事業者が商品購入者との間で電子決済を行い、代金を回収します。
- ⑤ ECマース事業者が生産者への支払いを行います。

5. 参考資料—b. 輸送方法の選択肢

b. 輸送方法の選択肢

貨物の大ロット化、集約について

- 数量をまとめて、定期的に輸送することで輸送コストを下げられる可能性があります。
 - 貨物を集約している例として、主に下記2パターンあります。
 1. 卸・商社等が複数の生産者、市場から品目を集め、大ロット化して海上輸送等を実施
 2. フォワーダーが複数の荷主（生産者、商社等）から品目を集め、混載して海上輸送等を実施
- ※混載とは・・・一つのコンテナに複数荷主の荷物を積み合わせる事
- 青果物を海上輸送するためには、リーファーコンテナやCAコンテナ等を利用しています。
 - 貯蔵最適温度、湿度が同一の単一品目をコンテナに積み合わせる事が理想ですが、複数品目を集約し大ロット化しているケースも多いです。
- ※ 貯蔵最適温度、湿度の条件が近い場合、エチレンや匂い等に注意が必要ですが、様々な品目を積み合せて輸送できる可能性があります。
- ※ 海上輸送で運べる範囲、品目の組み合わせについては各品目の品質、鮮度保持期間等によって変わる場合があります。
- ※ コンテナ内で設定できる温度は1温度帯ですが、梱包やコンテナに置く場所等を工夫することにより、多少の貯蔵温度の違いがあっても混載できます。

数量による輸送方法の選択

1. 1個からでも海外に輸送できるもの
クールEMSやクール宅急便等
(手引き p.78参照)
2. 小ロットから中ロット
航空、海上混載輸送
※輸送単位が小ロット、軽量の場合、航空便のほうが安い場合があります。
※鮮度保持期間と輸送日数が合えば、海上輸送のほうが安く運べることが多いです。
※ FCL(Full Container Load : フルコンテナ)を1企業の貨物では実現できない中規模の貨物を輸送したい場合、物流事業者が実施している海上輸送の混載サービスを利用することも可能です。
(手引き p.79-83参照)
3. 中ロットから大ロット
航空輸送、海上輸送
※輸送単位当たりの数量が増えると航空運賃も安くなります。
※鮮度保持期間と輸送日数が合えば、海上輸送のほうが安く運べます。
(各空港や各港より輸送ルートがあるため、物流会社等にお問い合わせください)

輸出する国・品目・鮮度保持期間、輸送数量、温度管理の要、不要等、様々な条件により、最適な輸送方法は異なります。何をいつまでに、何処に、どのような状態で輸送したいのか、物流会社（e.参考リンク集のフォワーダーリスト参照）に相談してください。

5. 参考資料—b. 輸送方法の選択肢

宅配・混載輸送サービスの一覧は、物流各企業へのアンケートに基づき作成しております。また、全ての事業者が掲載されているわけではありません。以下の一覧は輸送サービスの一例であり、記載されている国・地域以外にも条件により輸送可能な場合もあります。

(2017年1月時点)

国際宅配の有無

地域分類	輸出先国・地域	← 冷凍 ← 冷蔵 → 常温 →		
		-20℃~-15℃	0℃~10℃	
東アジア	香港	○	○	○
	台湾	○	○	○
東南アジア	シンガポール	○	○	○
	マレーシア	○	○	○
	ベトナム	○	○	○
欧州	フランス	○	○	○
主な取扱食品		-	果物（柑橘・メロン）・ 魚介類（サバ・ホタテ）・ 酒	コメ・果物（ぶどう）・ 梅・山椒・茶

※常温輸送は欧州各国やオーストラリア等も取扱あり

船便での混載サービス有無

地域分類	輸出先国・地域	← 冷凍 ← 冷蔵 → 常温 →		
		-20℃~-10℃	0℃~15℃	
東アジア	香港	○	○	○
	台湾		○	○
	大韓民国	○	○	○
東南アジア	シンガポール	○	○	○
	マレーシア		○	○
	タイ	○	○	○
中東	エジプト			○
北米	アメリカ合衆国		○	○
欧州	オランダ			○
	デンマーク	○		○
	ドイツ		○	○
	フランス		○	○
	英国		○	○
オセアニア	オーストラリア		○	○
主な取扱食品		加工食品・ 冷凍肉	加工食品・酒 コメ・味噌・菓子	加工食品・ 酒・コメ・茶

航空での混載サービス有無

地域分類	輸出先国・地域	← 冷凍 ← 冷蔵 → 常温 →		
		-20℃~-10℃	0℃~15℃	
東アジア	各国	○	○	○
東南アジア	各国	○	○	○
中東	各国	○	○	○
北米	各国	○	○	○
欧州	各国	○	○	○
大洋州	各国	○	○	○
主な取扱食品		魚介類・ 加工食品（冷凍食品）・ パン	果物（イチゴなど） 葉物野菜・ 大豆加工品(豆腐・納豆)	酒・コメ・ 乾燥食品・ 漬物・豆乳

5. 参考資料—b. 輸送方法の選択肢

宅配輸送

国際クール宅急便

輸出先国・地域	通関地	発送地	温度帯 (°C) *			スケジュール	実績のある主な品目
			冷凍	冷蔵	常温		
香港	沖縄	各地	-20	5	◎	随時	魚介類 (ホタテ・サバ・アジなど) ・果物 (みかん・りんご・いちごなど) ・酒 (日本酒・焼酎)
台湾							
シンガポール							
マレーシア							

提供企業) ヤマト運輸株式会社



コールドチェーンが途切れないように冷蔵対応のトラックや温度管理が可能なコンテナを使用している。



日本の各地から集荷した荷物を沖縄を通関地として、アジア各国・地域の拠点を活用した宅配ネットワークにより、冷蔵の戸口間輸送を実現している。

クールEMS

輸出先国・地域	通関地	発送地	温度帯 (°C) *			スケジュール	実績のある主な品目
			冷凍	冷蔵	常温		
香港	東京 大阪 中部	各地	-15	0~10	◎	随時	魚介類 (ホタテ・モロコなど) ・果物 (メロン・柑橘など) ・酒
台湾							
シンガポール							
マレーシア							
ベトナム							
フランス							

提供企業) 日本郵便株式会社



専用のボックスに梱包することで、輸送期間中の温度を維持する。コンテナや倉庫等を介さないため、外気に触れる心配がなく、安定した低温輸送が可能。

* 詳細な温度帯が不明なものは◎と表記

5. 参考資料—b. 輸送方法の選択肢

海上輸送

海上混載輸送_東アジア

輸出先 国・地域	出発港 ※ハンコウを している港	温度帯 (°C) *			社名	スケジュール	実績のある主な品目	補足情報	
		冷凍 -20℃～ -10℃	冷蔵 0℃～15℃	常温					
各国	各港			◎	郵船ロジスティクス	随時	ドライ品、菓子		
香港	大阪港	-18	5		日本通運	毎週1回※	加工食品、農産品、肉、酒	※船社混載利用	
	神戸港	-18	5		日本通運	毎週1回※	加工食品、農産品、肉、酒	※船社混載利用	
	博多港		5		日本通運	毎月2回	加工食品		
	東京港		-20			郵船ロジスティクス	毎週1回※	加工食品	※他社混載利用
			-18			日本通運	毎週1回※	加工食品、肉	※船社混載利用
				5		日本通運	毎週1回※	加工食品、農産品、酒	※船社混載利用
				15		ジェイ・エフ・ヒレブランド ジャパン	毎月1回	日本酒他酒類、米	
				15		日本通運	不定期※	酒	※他会混載利用
				◎	ネットインターナショナル	不定期	ラーメンスープ		
横浜港		5		セイノーロジックス	毎月1回	日本酒（大吟醸）、味噌、菓子※※			
台湾	東京港			◎	ネットインターナショナル	不定期	ビール		
	名古屋港		5		日本通運	毎週1回	加工食品、農産品、酒、植物		
			5		郵船ロジスティクス	随時	酒		
韓国	新潟港			◎	ネットインターナショナル	不定期	米		
	神戸港	-20			ネットインターナショナル	不定期	モチクリーム		
	清水港			◎	ネットインターナショナル	不定期	ドレッシング		
	横浜港		5		セイノーロジックス	毎月1回	日本酒（大吟醸）、味噌、菓子※※		
				◎	ネットインターナショナル	不定期	ペビーフード		

海上混載輸送_東南アジア

輸出先 国・地域	出発港 ※ハンコウを している港	温度帯 (°C) *			社名	スケジュール	実績のある主な品目	補足情報
		冷凍 -20℃～ -10℃	冷蔵 0℃～15℃	常温				
各国	各港			◎	郵船ロジスティクス	随時	ドライ品、菓子	
	神戸港		15		ジェイ・エフ・ヒレブランド ジャパン	隔月(2017年開始予定)	日本酒他酒類	2017年内開始予定
	東京港	-20			郵船ロジスティクス	随時	加工食品	
		-18			日本通運	毎月2回	加工食品	
			15		ジェイ・エフ・ヒレブランド ジャパン	隔月(2017年開始予定)	日本酒他酒類	2017年内開始予定
マレーシア	東京港		5		日本通運	毎月2回	加工食品、農産品、酒	
タイ	横浜港			◎	ネットインターナショナル	不定期	ドレッシング	
	東京港	-20			郵船ロジスティクス	毎週1回※	加工食品	※他社サービス利用
		-18			日本通運	毎週1回※	加工食品、肉	※船社混載利用
			5		日本通運	毎週1回※	加工食品、農産品、酒	※船社混載利用
	大阪港	-18	5		日本通運	毎週1回※	加工食品、農産品、肉、酒	※船社混載利用
神戸港	-18	5		日本通運	毎週1回※	加工食品、農産品、肉、酒	※船社混載利用	

* 詳細な温度帯が不明なものは◎と表記
 ※他社船混載
 ※※食肉類等一部取扱不可品目あり

5. 参考資料—b. 輸送方法の選択肢

海上輸送

海上混載輸送_アフリカ

輸出先 国・地域	出発港 ※ハンコクを している港	温度帯 (°C) *			社名	スケジュール	実績のある主な品目
		冷凍 -20℃~-10℃	冷蔵 0℃~15℃	常温			
各国	各港			◎	郵船ロジスティクス	随時	ドライ品、菓子
エジプト	東京港			◎	ネットインターナショナル	不定期	乾燥タマネギ

海上混載輸送_北米

輸出先 国・地域	出発港 ※ハンコクを している港	温度帯 (°C) *			社名	スケジュール	実績のある主な品目
		冷凍 -20℃~-10℃	冷蔵 0℃~15℃	常温			
各国	各港			◎	郵船ロジスティクス	随時	ドライ品、菓子
アメリカ	東京港		15		ジェイ・エフ・ヒレブランド ジャパン	隔月(2017年開 始予定)	日本酒他酒類
	神戸港		15		ジェイ・エフ・ヒレブランド ジャパン	隔月(2017年開 始予定)	日本酒他酒類

海上混載輸送_大洋州

輸出先 国・地域	出発港 ※ハンコクを している港	温度帯 (°C) *			社名	スケジュール	実績のある主な品目
		冷凍 -20℃~-10℃	冷蔵 0℃~15℃	常温			
各国	各港			◎	郵船ロジスティクス	随時	ドライ品、菓子
オースト ラリア	東京港		15		ジェイ・エフ・ヒレブランド ジャパン	隔月(2017年開 始予定)	日本酒他酒類
	神戸港		15		ジェイ・エフ・ヒレブランド ジャパン	隔月(2017年開 始予定)	日本酒他酒類
	清水港			◎	ネットインターナショナル	不定期	緑茶

海上混載輸送_欧州

輸出先 国・地域	出発港 ※ハンコクを している港	温度帯 (°C) *			社名	スケジュール	実績のある主な品目
		冷凍 -20℃~-10℃	冷蔵 0℃~15℃	常温			
各国	各港			◎	郵船ロジスティクス	随時	ドライ品、菓子
ドイツ	横浜港		5		セイノーロジックス	毎月1回	日本酒(大吟醸)、味噌、 菓子※※
イギリス	横浜港		5		セイノーロジックス	毎月1回	日本酒(大吟醸)、味噌、 菓子※※
フランス	東京港		8		ジェイ・エフ・ヒレブランド ジャパン	7週毎	日本酒他酒類
			8		日本通運	不定期※	酒
オランダ	神戸港			◎	ネットインターナショナル	不定期	日本酒
	東京港			◎	ネットインターナショナル	毎年1~2回	種子(スイカ)
デン マーク	東京港	-18			ネットインターナショナル	不定期	冷凍麺
	横浜港			◎	ネットインターナショナル	不定期	ラーメンスープ

* 詳細な温度帯が不明なものは◎と表記
 ※他社船混載
 ※※食肉類等一部取扱不可品目あり

5. 参考資料—b. 輸送方法の選択肢

航空輸送

航空混載輸送_東アジア

輸出先 国・地域	出発空港 ※パンニングを している港	温度帯 (°C) *			社名	スケジュール	実績のある主な品目
		冷凍 -20℃~-10℃	冷蔵 0℃~15℃	常温			
各国	各空港	-20			郵船ロジスティクス	随時	加工食品
			5		郵船ロジスティクス	随時	酒
				◎	郵船ロジスティクス	随時	ドライ、菓子
		◎			日通	随時	肉・魚
			◎		日通	随時	青果物
香港	各空港	-10	5		ナカムラエア-エクスプレス	随時	食品全般
		-18			東京航空貨物	月、火、木、金	冷凍品・肉・魚
	関西		0~5		東京航空貨物	月、火、木、金	野菜、豆腐、納豆、酒、飲料
				◎	ネットインターナショナル	不定期	ワイン
	千歳		◎		日新	毎週2回	生鮮品
			◎		日新	毎週2回	牛肉、うどん、魚
	成田		5~10		西日本鉄道	随時	レタス
				◎	ネットインターナショナル	随時	ラーメンスープ、ワイン
福岡			◎	日新	毎日	イチゴ、葉物野菜	
			◎	西日本鉄道	毎月2回	イチゴ、桃、葡萄、蜜柑、林檎、鶏卵	
台湾	関西		◎	日新	毎週1回	葉物野菜	
	各空港	-10	5		ナカムラエア-エクスプレス	随時	食品全般
韓国	各空港	-10	5		ナカムラエア-エクスプレス	随時	食品全般
中国	各空港	-10	5		ナカムラエア-エクスプレス	随時	食品全般

航空混載輸送_東南アジア

輸出先 国・地域	出発空港 ※パンニングを している港	温度帯 (°C) *			社名	スケジュール	実績のある主な品目
		冷凍 -20℃~-10℃	冷蔵 0℃~15℃	常温			
各国	各空港	-20			郵船ロジスティクス	随時	加工食品
			5		郵船ロジスティクス	随時	酒
				◎	郵船ロジスティクス	随時	ドライ、菓子
		◎			日通	随時	肉・魚
			◎		日通	随時	青果物
シンガ ポール	各空港		5		ナカムラエア-エクスプレス	随時	食品全般
	成田		◎		日新	毎週1回	青果物
	福岡		◎		日新	毎月2回	イチゴ、葉物野菜
マレー シア	各空港	-10	5		ナカムラエア-エクスプレス	随時	食品全般
	成田		◎		日新	毎週1回	青果物
インド ネシア	各空港	-10	5		ナカムラエア-エクスプレス	随時	食品全般
タイ	各空港	-10			ナカムラエア-エクスプレス	随時	食品全般
			5		ナカムラエア-エクスプレス	随時	食品全般
	成田		◎		日新	毎週1回	青果物
ベトナム	各空港		◎		日新	毎週1回	水産物、牛肉
		-18			西日本鉄道	随時	魚
	成田		4		西日本鉄道	随時	イチゴ
			5		西日本鉄道	週1回	切花
フィリピン	各空港	-10	5		ナカムラエア-エクスプレス	随時	食品全般

* 詳細な温度帯が不明なものは◎と表記

5. 参考資料—b. 輸送方法の選択肢

航空輸送

航空混載輸送_中東

輸出先 国・地域	出発空港 ※ハンコックを している港	温度帯 (°C) *			社名	スケジュール	実績のある主な品目
		冷凍 -20°C~-10°C	冷蔵 0°C~15°C	常温			
各国	各空港	-20			郵船ロジスティクス	随時	加工食品
			5		郵船ロジスティクス	随時	酒
				◎	郵船ロジスティクス	随時	ドライ、菓子
		◎			日通	随時	肉・魚
			◎		日通	随時	青果物
				◎	日通	随時	加工食品・調味料・菓子
		-10			ナカムラエアークスプレス	随時	食品全般
	5		ナカムラエアークスプレス	随時	食品全般		
UAE	関西		5		西日本鉄道	不定期	牛肉
	成田			18~22	ネットインターナショナル	随時	クッキー、チョコレート

航空混載輸送_北米

輸出先 国・地域	出発空港 ※ハンコックを している港	温度帯 (°C) *			社名	スケジュール	実績のある主な品目
		冷凍 -20°C~-10°C	冷蔵 0°C~15°C	常温			
各国	各空港	-20			郵船ロジスティクス	随時	加工食品
			5		郵船ロジスティクス	随時	酒
				◎	郵船ロジスティクス	随時	ドライ、菓子
		◎			日通	随時	肉・魚
			◎		日通	随時	青果物
				◎	日通	随時	加工食品・調味料・菓子
アメリカ	各空港	-10	5		ナカムラエアークスプレス	随時	食品全般
	成田	◎			日新	年4回	パン・ソース・ケチャップ
カナダ	各空港	-10	5		ナカムラエアークスプレス	随時	食品全般

航空混載輸送_大洋州

輸出先 国・地域	出発空港 ※ハンコックを している港	温度帯 (°C)			社名	スケジュール	実績のある主な品目
		冷凍 -20°C~-10°C	冷蔵 0°C~15°C	常温			
各国	各空港	-20			郵船ロジスティクス	随時	加工食品
			5		郵船ロジスティクス	随時	酒
				◎	郵船ロジスティクス	随時	ドライ、菓子
		◎			日通	随時	肉・魚
			◎		日通	随時	青果物
				◎	日通	随時	加工食品・調味料・菓子
オーストラリア	各空港	-10	5		ナカムラエアークスプレス	随時	食品全般

* 詳細な温度帯が不明なものは◎と表記

5. 参考資料—b. 輸送方法の選択肢

航空輸送

航空混載輸送_欧州

輸出先 国・地域	出発空港 ※ハブ空港を している港	温度帯 (°C) *			社名	スケジュール	実績のある主な品目
		冷凍 -20°C~-10°C	冷蔵 0°C~15°C	常温			
各国	各空港	-20			郵船ロジスティクス	随時	加工食品
			5		郵船ロジスティクス	随時	酒
				◎	郵船ロジスティクス	随時	ドライ・菓子
		◎			日通	随時	肉・魚
			◎		日通	随時	青果物
				◎	日通	随時	加工食品・調味料・菓子
ドイツ	各空港	-10	5		ナカムラエア-エクスプレス	随時	食品全般
	成田		2		日新	毎月1回	牛肉
イギリス	関西		5		西日本鉄道	不定期	日本酒
				◎	ネットインターナショナル	不定期	日本酒
	成田		2		日新	毎月1回	牛肉
			0~10		西日本鉄道	毎月2回	豆腐
フランス	各空港	-10	5		ナカムラエア-エクスプレス	随時	食品全般
	成田			◎	ネットインターナショナル	随時	豆乳
	羽田		5		西日本鉄道	週1回	切花、野菜
イタリア	各空港	-10	5		ナカムラエア-エクスプレス	随時	食品全般
オランダ	成田	5			西日本鉄道	月2回	切花
				◎	ネットインターナショナル	随時	うどん、漬物、わかめ
デン マーク	成田		2		日新	毎月1回	牛肉
		◎			ネットインターナショナル	随時	冷凍麺、ラーメンスープ
			◎		ネットインターナショナル	随時	ラーメンスープ

* 詳細な温度帯が不明なものは◎と表記

5. 参考資料— c. 物流用語集

c. 物流用語集【あ-こ】

	用語	解説
【あ】		
【い】	一貫パレチゼーション	物品又は包装貨物をパレットに積み、パレット単位で物流を行うこと。パレットによるユニットロードで荷役を機械化し、物流の効率化を図る手段である。発地から着地まで一貫して同一のパレットに貨物を積載したまま物流を行うことを、一貫パレチゼーションという。
	インテグレーター	Integrator。航空会社とフォワーダーの両方の機能を併せ持つ輸送会社。
	インボイス(送り状)	輸出者が輸入者宛てに発行する商品取引の明細書、計算書、代金請求書をいい、主要な書類の1つとして荷為替取組や輸出入通関に用いられる。
【う】	上屋(ウワヤ)	輸送途中で物資の一時保管又は仮置きするための施設。主にふ(埠)頭で輸出入物資の荷さばき及びそれに付随する保管を行う。
	運送人(ウンソウニン)	運送人(航空会社や船社)をいい、自ら航空機や船を使用して貨物の運送を行う者をいう。
【え】		
【お】	乙仲(オツナカ)	乙種海運仲立人の略で、港湾運送業(港運業)の意。現在は海上、航空を問わず通関業者の意で使われることも多い。
	オン・ボード	貨物が船舶や航空機に搭載されたこと、またはその状態。
【か】	カルネ手帳(カルネテチョウ)	正式にはATAカルネ(ATA CARNET)という。展示会等への出展物、商用に使用する物品、商品見本等で無償で一時的に輸出した後に再輸入する場合、カルネ手帳を使って通関することによって、輸入税が免税される。
	関税(カンゼイ)	通常、外国貨物を輸入する際、一定の税率で税関に支払われる税金をいう。関税の支払が確認されて輸入許可となるが、関税の納税義務者はその貨物の輸入者(荷主)であり、申告納税方式により税額が確定される。
【き】	共同運行(キョウドウウンコウ)	共同運航。提携する複数の航空会社が、それぞれ相手の運航する指定便に自社の便名をつけ自社の運航便と同様の予約、発券等を行う。
	共同物流(キョウドウブツリユウ)	複数の企業が、物流業務の効率化、顧客サービスの向上、交通混雑の緩和、環境負荷の軽減などのために、物流機能を共同化すること。
	緊急通関(キンキュウツウカン)	税関の開庁時間外に通関申告を行うこと。事前に税関からの承諾が必要であり、臨時開庁料も発生する。
【く】	グリーン調達(グリーンチョウタツ)	環境への負荷が小さい製品・サービスを、また、環境負荷の低減に努める企業から優先して購入・調達すること。
	クロスドック・オペレーション	倉庫の荷受場(ドック)で、入荷品を事前の出荷通知に基づき保管するか出荷するか識別し、出荷品を出荷場(ドック)へ通過(クロス)させること。
	クーリエ	航空輸送を用いた国際宅急便のうち、契約書・業務用資料等の書類や小口貨物を対象とするもの。
【け】	検疫(ケンエキ)	動物検疫、植物検疫。動物、植物の輸入には各々の法律に基づき、検疫が必要になる。
	原産地証明書(ゲンサンチショウメイシヨ)	貨物とその輸出国の原産であることを証明した書類。日本発輸出貨物の場合は、商工会議所にて発給される。英語では“Certificate of Origin”という。
【こ】	航空運送状(コウクウウンソウジョウ)	荷送人又は、その代理人によって作成され、航空会社が受託した貨物を運送するため、荷送人との間で運送契約を結んだことを証明するもの。船荷証券(BILL OF LADING)のような流通性はない。混載貨物で、荷送人と混載業者との間で発行されるものをHOUSE AIR WAYBILLという。
	更正(コウセイ)	過去に行った納税申告について、過大申告をした際に行う税金返金願いのための申告。
	国際複合一貫輸送	(1)少なくとも2つの運送手段によって行われる、(2)1つの運送契約に基づく、(3)2国間の物品輸送のこと(1980年国連陸路物品複合運送条約)。具体的な輸送ルートとしては、シベリア・ランドブリッジ、シー・アンド・エア・米国、欧州、韓国、中国、アフリカといった地域の内陸までの一貫輸送がある。

5. 参考資料— c. 物流用語集

c. 物流用語集【こ-て】

	用語	解説
【こ】	混載貨物（コンサイカモツ）	利用航空運送事業者が、自己の運送約款に基づいて、航空会社の賃率より安い賃率で、不特定多数の荷主から集荷した貨物を、同一地域あてに一括仕立てをし、自ら荷送人となって、航空会社と運送契約を締結し運送される貨物。
	混載差益	混積業者が荷主から集めた小口貨物を大口貨物に仕立てることによって安い運賃で運送を委託できることになるが、この場合の荷主からの運賃と委託先へ支払う運賃の差のこと。
	混載トラック（コンサイトトラック）	複数の荷主の貨物を搭載したトラック。
	コンテナ	一般的には貨物のユニット化を目的とする輸送用の容器のことで、積み替えが容易な構造であり貨物の詰め込みが容易で各種の輸送に適合する容積を持ち、長期反復使用に耐える強度を有することを基本的条件として備えることとされている。I S O（国際標準化機構）規格によって国際的に、コンテナの定義、名称、寸法、最大総重量、仕様、試験方法などが規程されている。
	コンテナターミナル	コンテナの海上輸送と陸上輸送とを結ぶ接点又は鉄道輸送とトラック輸送とを結ぶ接点の施設。
	コントラクト・ロジスティクス	顧客に対し長期契約でロジスティクスを包括請負すること。
	コールドチェーン（Cold Chain）	生鮮食料品、冷凍食品などを、品質維持のため品物の温度を必要十分に低く保ちながら、生産地から消費地まで流通させる仕組み。
【さ】	三国間輸送（サンゴクカンユソウ）	自社が商流にかかわっているものの、自国と相手国との間の貨物輸送ではなく、自国以外の国と、その他の国との間で行われる貨物輸送。
	サードパーティーロジスティクス	荷主企業でも物流事業者でもない第三者が荷主のロジスティクスを代行するサービス。倉庫、車両などの施設・設備がなくても事業化できる運営ノウハウをもとに、情報システム及び業務改革の提案を中心に長期的な管理目標を定め、達成した改善利益の配分を受けるものであるが、物流事業者が荷主企業のアウトソーシングニーズに広範に対応して一括受注するケースも含まれる。
【し】	シー・アンド・エアー	主に欧米向きに海上輸送と航空輸送を組み合わせた国際複合一貫輸送の一形態。
	修正申告（シュウセイシンゴク）	過去に行った納税申告について、過少申告をした際に行う修正のための申告。
【す】	ステバ	ステバデア（Stevedore）の略。船舶・埠頭における貨物の積み卸しを専門に行う船舶荷受請負業者のこと。
	スピードリミッター	時速90キロメートルに達すると加速を抑制する装置。車両総重量8トン以上又は最大積載量5トン以上の大型貨物自動車に設置を義務付けている。
【せ】	税関空港（ゼイカンクウゴウ）	貨物の輸出入、または外国貿易機の入出港事情により、政令によって定められた空港。新千歳、函館、旭川、青森、秋田、仙台、福島、成田国際、東京国際、新潟、小松、富山、静岡、中部国際、関西国際、岡山、広島、美保、高松、松山、福岡、北九州、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、那覇の29空港がある。
	セキュリティ・サーチャージ	Security Surcharge。2002年9月11日の米国同時多発テロ発生以来、各航空会社が安全確認のために貨物チェックをおこなうことになったために、課される割り増し手数料。
【そ】		
【た】	ダブル・カートン	国際輸送に適した二重層になったカートン（段ボール）。
【ち】	チャーター・トラック	その貨物の運送のために、個別に仕立てたトラック。
【つ】	通関士（ツウカンシ）	通関業法に基づく通関士試験に合格し、税関長の確認を受けて、通関業者の通関業務に従事するもの。
【て】	手仕舞い書類（テジマイショルイ）	海上輸送に関して、発地の仕立箇所から着地のブレイクバルク箇所へ送付するB / L、混載の内容を記したマニフェストなどの書類一式の総称。
	デバンニング	貨物コンテナなどから物品を取り卸す作業。
	DELIVERY ORDER（デリバリーオーダー）	荷渡指図書。船社がC F S（倉庫）又はC Yオペレーター（コンテナヤード）宛に、本状持参人に貨物の引渡しを指示する書類。本来荷渡しは、B / Lと引換えに行われるべきものであるが、実務上、荷受人よりのB / L提出に対して、船社またはフォワーダーはD / Oを発行交付、荷受人はこれを提示し、実際に荷渡しを受ける。

5. 参考資料— c. 物流用語集

c. 物流用語集【て-ふ】

	用語	解説
【て】	電子タグ（デンシタグ）	商品等の情報を記録したICチップにより、情報を読み取るタグで、無線ICタグ、ICタグ、RFIDタグとも呼ばれる。
	電子データ交換（デンシデータコウカン）	情報通信用語。伝票や書類による取引、手続をコンピュータ・ネットワークを介して行うもの。
【と】	ドライカーゴ	生鮮品、冷凍・冷蔵品、動植物等を含まない一般貨物の総称。
	トラッキング	Tracking。貨物追跡の意。
	トラック・ドック	倉庫内でのトラックへの積み込み場所。
	トレーサビリティ	Traceability。調達、生産、販売、消費、廃棄の各物流過程で、物資とその情報を追跡し、及びそ（遡）及ぶこと。
【な】		
【に】	荷受人（ニウケニン）	CONSIGNEEと同義語。貨物が運送人により引き渡される相手方として運送状面に記載されている者。
	荷送人（ニオクリニン）	CONSIGNORと同義語。貨物の運送にあたって、運送人と運送契約を締結する荷送人として運送状に記載された人。
【ぬ】		
【ね】		
【の】	ノックダウン	Knock Down (KD)。部品を輸出して現地で組み立てること。
【は】	バイヤーズ・コンソリデーション	買付け物流ともいう。フォワーダーがバイヤーに代わって発地の複数のサプライヤーから貨物を集め、一つの貨物にまとめ輸送すること。
	パウチ	Pouch。搭載貨物書類を入れた紙封筒のこと。飛行中はコック・ピットに保管される。
	パッキング・リスト	Packing List (梱包明細書)。
	パッセンジャー	Passenger Flight (旅客便) の略。
	バルクカーゴ	液体、木材等、包装せずに大量に輸送される貨物。バラ貨物とも言われる。
	パレット	ユニットロードを推進するために用いられ、物品を荷役、輸送、及び保管するために単位数量に取りまとめて載せる面をもつもの。上部構造物をもつものを含む
	ハンド・キャリー	Hand Carry。乗客の携帯貨物として航空機に搭載し、到着空港の税関窓口で業務通関を行うこと。
	バンニング (Vanning)	貨物コンテナなどに物品を積み込む作業。
【ひ】	ピック&バック	倉庫内の複数の保管箇所から必要な物品を取り出し、一つにまとめて梱包する作業。
【ふ】	フィーダー (Feeder)	本船が寄港する主要港から別便で枝分かれした支線のこと。そこを運航する船をフィーダー船という。
	フォワーダー	わが国では、混載業者、貨物利用運送事業者などの名称で呼ばれている。航空、海上あるいは鉄道に係る利用運送事業者という場合が多い。航空貨物フォワーダーは、もともとは鉄道の地上輸送にならったもので、航空分野への出現は1945・6年の頃である。
	フォワーダー・チャーター	フォワーダーが航空会社から航空機の全スペースを借り切り、自らが運送人となって第三者と運送契約を結ぶこと。
	複合一貫輸送 (フクゴウイッカンユソウ)	ある輸送単位の貨物を組み替えることなく、トラック、船舶、鉄道車両、航空機などの異なった輸送機関を組み合わせて行う輸送。協同一貫輸送ともいう。
	船荷証券 (フナニショウケン)	海上運送について、運送人と荷送人との間に物品運送約を締結したことを証明する書類。船荷証券の書類には、在来船に積み込みした場合に発行するON BOARD B/L (船積船荷証券) と、コンテナ船に積み込みした場合に発行するRECEIVED B/L (受取船荷証券) とがある。船荷証券と航空運送状との大きな相違点は、航空運送状が譲渡性、流通性を持たないのに対し、船荷証券はその所有者に貨物を引き渡すことを約束した引換証であり、流通性を持つ有価証券であることである。

5. 参考資料—c. 物流用語集

c. 物流用語集【ふ-れ】

	用語	解説
【ふ】	フューエル・サーチャージ	Fuel Surcharge. 燃料サーチャージ。
	フラッグ・キャリアー	Flag Carrier. 各国を代表する航空会社。ナショナル・キャリアーともいう。
	フリー・ハウス・デリバリー	貨物到着地での通関手数料、配送料、税金等、一切の料金を輸出者（Shipper）が負担する輸送形態。
	ブレイクバルク	フォワーダーは混載貨物として複数の荷主の貨物を1件の貨物としてまとめて運送を行う。ブレイクバルクとは、到着地において、その混載貨物を荷主ごとに書類、貨物を仕分けること意味する。
	フレーター	Freighter. 貨物専用機。
【へ】		
【ほ】	保税上屋（ホゼイウワヤ）	税関当局が外国貨物を未通関のまま、もしくは輸出通関後搬出までの間、貨物を蔵置しておくために許可を与えた倉庫。
	保税地域（ホゼイチイキ）	税関当局が外国貨物を未通関のまま、もしくは輸出通関後搬出までの間、貨物を蔵置、保管しておくために許可を与えた地域。
【ま】	マッチング	輸入貨物到着後、空港の上屋で書類上の個数と、実際の貨物の個数の一致が取れ、物理的に輸入申告に入れる状態になること。「あたりが取れる」とも言う。
	マニフェスト	本船、航空機に搭載されている貨物の明細目録で、運送状番号、個数、重量、品名等が記載されている。
【み】	ミルクラン輸送（ミルクランユソウ）	運送業者が複数の部品メーカーを回り、部品の集荷を行う調達物流の形態。牛乳メーカーが牧場を巡回しミルクを集荷する方法に似ているためこう呼ばれる。
【む】		
【め】		
【も】	モーダルシフト	地域間の、量をまとめた幹線貨物輸送をトラックから鉄道又は内航海運へ転換し、トラックと連携して複合一貫輸送を推進すること。道路交通の混雑、大気汚染などの環境問題への対応をしている。
【や】		
【ゆ】	輸送トンキロ	輸送した各々の貨物（トン）にそれぞれの貨物を輸送した距離（キロ）を乗じたものの累積。
	輸送トン数	輸送した貨物の総トン数。
	ユニットロード	複数の物品又は包装貨物を、機械及び器具による取扱いに適するように、パレット、コンテナなどを使って一つの単位にまとめた貨物。この目的に合致する1個の大形の物品に対しても適用する。貨物をユニットロードにすることによって、荷役を機械化し、輸送、保管などを一貫して効率化する仕組みをユニットロードシステムという。
	輸入消費税（ユニューショウヒゼイ）	日本国内への輸入に際し支払う消費税（仕入れ行為と見なされる）。CIF価格に関税を足した合計に5%課税される。
【よ】	予約（ヨヤク）	RESERVATIONともいう。貨物搭載のため、特定の便のスペースを確保すること。
【ら】	ランド・ブリッジ	国際複合一貫輸送のルートにおいて大陸等陸路を大きな架け橋にみたてた概念。通常、海上航路のバイパス的役割を果たしている代表例として、シベリア・ランド・ブリッジ、ミニ・ランド・ブリッジなどがある。
【り】	流通加工（リュウツウカコウ）	流通過程の倉庫、物流センター、店舗などで商品に加工すること。生鮮食品又は繊維品の二次加工、小分け商品化包装、値札付け、鉄鋼・ガラスなど生産財の裁断、注文に対応する機器の組立て・組替え及び塗装替えなどをいう。
	利用航空運送事業者（リョウコウクウウンソウジギョウシャ）	通常、混載業者といわれ、フォワーダーとほぼ同義語。フォワーダーの項参照。
	リーファーカーゴ	Reefer Cargo. 冷凍および冷蔵貨物。専用のコンテナをReefer Containerという。
【る】		
【れ】		